

協定留学生・東西大生校生の記憶の欠片



H24年度 協定留学研修を終えるにあたり

協定留学生・東西大生校
発行日 2013. 09. 13

目次:

ミュンヘン大学 イネケ・ツィマーマン	1
北京大学 呉 悠	2
上海大学 李 义翹	5
上海大学 方 賢慧	5
河南大学 申 遠	7
河南大学 張 雨晨	8
河南大学 刘 静雅	8
河南大学 张 倍	9
河南大学 陳 羽	11
東西大生校 日本文化研修生	11

確かな記憶が残っている。あなた方が成田空港に到着した日の事を。自分の体よりも大きな荷物を抱え到着ロビーに姿を現し、一人一人の心が不安を感じていたことも。日本は近くて遠い国なのか、距離的な感覚がない。わずか数時間で日本の土を踏めるのだが初めて訪問する人には不安がある。言葉そして日本の国民性など今まで想像をしていたものが確実に現実になっていく不安感であろうか。

大正大学での授業は少人数で日本語の授業が行われた。言葉は、運用されることで生きてくる。彼らの多くは机上での学習が中心でコミュニケーションの道具として使われるのは、ここに到着して初めてのことである。教室とキャンパスで友達も多く出来た。知らない内に、友達が仲間になり、声をかけ始めた。そこには、もう言葉の壁も、国の境もなくなってきていた。いつも誰かと話しているみ

んなの姿を記憶している

大正大学には、留学生を囲み、互いの文化を理解し合っていく雰囲気がある。そのことを積極的に進めてくれる熱い心の持つ仲間がいる。留学生は、時々、小さな不安や心配事を抱えることが多いが、いつも大正生に救われている。

今回も多くの留学生サポーターが活躍してくれた。留学生が悩んだとき、壁にぶかったとき、いつでも声をかけてくれたのが彼等だった。そして、彼らとの誕生日会、学習会、一緒に行った鎌倉小旅行などなど。そして、一年という長くも短い留学が終わった。

思い出は、大正大学、富士山、横浜、鎌倉、北海道、歌舞伎教室、学科授業、日本語の授業と記憶に留まった。

そして、再度の再会を約束をして、それぞれの国に飛び立っていった。また会いましょう！と言葉にして。

大正大学で学んだことー東西大生校日本文化研修生

韓国、釜山の東西大生校から日本文化研修のために本校に4か月間という短い期間ではありましたが、充実した学校生活を楽しみました。昨年、大正大学から語学研修に行った際に歓待をくださった学生が、今度は大正大学に来て、参加者同士抱き合うように親交を深めていました。4か月間の間に、日本の文化を肌で感じ取り、両国間の親善大使として活躍してくれたことは勿論のこと、本校と東西大生校の橋渡しをして下さいました。今後とも、この良好な関係が保てるように努力したいものです。



ここに集めた、それぞれの文面は、訂正をしていません。いくつかの間違った表現もありますが、本人が伝えようとしていることは、文字の隙間から伝わってきます。ご理解ください。



留学生として一年間東京にて

ミュンヘン大学 Ineke Franziska Zimmermann

留学生の生活がもうすぐ終わってしまうのはなかなか信じられません。一年間ぐらい東京に住んでいて、いつも日本人に会ったり日本語を毎日おしゃべりしたり、全部のことに慣れたんです。ずっとその通りに生活しているらしい気持ちになりました。それはいろいろな方、後は事のおかげです。

日本へ来る前は、日本文化をあまり知らなくて、たくさんのびっくりがあつて、難しいところがたくさんありました。日本料理はまだ食べたことは少なかったし、暑い天気や地震も最初にちょっと心配でした。だが、毎日一生懸命新しい生活で頑張つて、だんだんよく慣れてきたんです。現在、東京の生活は本当に好きになりました。便利な地下鉄や面白い買い物などの場所やおいしいレストランなど、または、広い東京市区、新宿、浅草、特に池袋、何回も遊びに行きまして、いつも友達と一緒に楽しい時間を過ごしていったんで。賑やかな場所の喧騒とアナウンスさえも、これから恋しがると思います。

大正大学に初めの日は、先生たちと留学生たちのおかげで、すぐ良い気持ちでした。皆様はとても親切で、いろいろな面白い会話ができたと、心から嬉しかったです。そして、何か分からなかったら、皆さんはいつも手伝ってくれて、良かったです。大学に授業も最初から面白くて、私に初めて日本に日本語を教えられてくれて、いい気持ちでした。他の中国と韓国から来た留学生が上手なので、私の下手な日本語をちょっと心配だったのに、ずっと頑張つて、コミュニケーションがよくできるようになりました。日本以外のアジアの文化についてもいろいろ習った

のは、ヨーロッパ人として、よかったです。そして、授業では漢字を勉強して、レポートを書いて、発表もたくさんして、だんだん日本語もよくなりました。日本語の勉強以外、日本文化と仏教の社会などについても授業あつて、面白いことをたくさん習いました。日本人の大学生といっしょに仏像を直したり、仏の絵も描いたりして、自分の手で伝統的なものを作るのはとてもいい気持ちでした。

さらに、日本の文化について習うために、いろいろな博物館に行つてきて、先生たちも留学生を歌舞伎に連れて行つてくれて、とても面白くて、その文化についての興味はもっと強くなりました。大学の一番楽しいイベントは確かに盆踊りの祭りでした。留学生の友達と一緒に好きな浴衣を着

て、日本人といっしょにたくさん踊りました。それをしながら、私たちは外国人ですけど、みんなは着物姿でいっしょに同じダンスをして、共同体になりまして、きれいな音楽でずっと踊つて、非常にいい気持ちでした。

キャンパス生活以外、自分の日常もとても変わりました。ドイツに住んでいたとき、生活の中でいろいろなことが違いました。アパートからして、多くの違いがありました。湯加減が変えられるお風呂やエアコンがはじめて使いました。さらに、もちろん冷蔵庫に入っている料理も変わりました。毎日箸でご飯を食べることになりました。スーパーで円で払ったり、コンビニにの店員さんの丁寧な態度も鑑賞しました。店の係員の上に、日本人はいつも非常に親切で、丁寧なことは好きになって、私もお辞儀をするように頑張りました。暇な時間があつたら、友達といっしょによく遊びに行つて、旅行しました。東京外、横浜、箱根、草津などの町に行つてきまして、いつも面白くて、写真をたくさん撮つたりお土産も買つたりして、楽しかったです。一番遠い旅行は広島でした。宮島は厳島神社の鳥居などはすばらしかったです。一年間の留学の終わりは早過ぎて、実はまだまだドイツへ帰りたくないんです。ここの生活は大好きになって、多くの人と親交を結んできて、すばらしい経験をたくさん作れました。記念は大事にしながら、絶対に日本に戻りたいと思いますので、戻るためにこれから一生懸命頑張ります。



日本に来てよかった

北京大学 吳 悠

時の流れは速いものだろう。去年の夏、初めて成田空港に着いた時のことは昨日みたいなのに、今はもうそろそろ夏が終わった。

日本にいるこの一年間、本当に一生忘れない良い思い出になった。初めて来た日はすごく疲れて、ちょっと熱が出ていた。優しい母親みたいな馬場先生が心配してくれて、非常に感動した。日本にいるこの一年間も、人々の優しさと心遣いに感動して、ずっとそのふうに過ごしてきた。

大正大学に色々な授業を受けて、学校活動に参加して、良い勉強になった。大正大学は文科類専門の大学で、特に仏教が特長である。学期が始まる前に、教学支援課の先生たちが説明会を行った。日本の日常生活から大学の勉強まで、いろいろなことについて、詳しい説明をした。その時、一緒に交換留学をしている14名の留学生たち、皆自己紹介をして、仲良くしようと約束した。住民票と国民健康保険のために区役所に行った時、優しい中国人の役員と出会った。その伯母さんは日本人と結婚して、日本に二十年以上の生活をしてきた。彼女から詳しい指導を受けて、とても分かりやすかった。学校の入学式に、学長先生と各学部の主任先生たちが来ていただいて、私たち学生より人数が多かった。その日、私は代表として発言した。これから一生懸命勉強しようと、色んな場所に旅行したいと、日本の美と日本の文化を体験したいと、私たちは望んでいた。秋学期に沢山日本語授業を取って、日本語がうまくなった。特に優しい先生たちのおかげで、日本人と会話する時、怖くなくなった。そして日本人の日常生活、例えばお弁当とか、花火大会とか、祭りなどは、身をもって体験した。秋学期ほぼ毎日お弁当を作って、大学の食堂で温めて食べていた。

秋学期が終わった時、その冬休みに私は郵便局の短期アルバイトをした。日本の年賀状と年賀葉書文化は身を以て感じていた。年末年始の二週間は郵便局一年間の中で一番忙しい時だ。日本の主婦たちは“今年色々お世話になりました、来年もよろしくお願ひします”とか書いていて、全部の親友に年賀葉書を送る。アルバイトをしていた王子郵便局は、1月4日まで、50万枚以上の年賀葉書を送った。毎日、ポスターに記載した枚数が増えてきて、見るだけで嬉しくなった。郵便局のバイトは短いけど、いろいろ勉強になった。その後、ラーメン屋にアルバイトをした。日本人の学生は高校時代からずっとバイトをしていると聞いていたが、それも体験したいのだ。自分の給料で新しいパソコンを買った時、たっぷりの満足感は何よりも嬉しかった。

春学期から、もっと専門な授業を取った。例えば、春本先生の「中国の哲学」の授業は、修士の専攻と同じだ。日本版の『論語』について学んでいて、色んな区別を感じていた。日本の「訓読」は訓点を使って、漢文に助詞を入れることだが、中国の「句読」とはただ点を入れることだ。そして、日本語の翻訳から、日本人はどういうふうに『論語』を理解するのか、それも分かっていた。

春休みに、友達と一緒に、北海道に旅行した。札幌のラーメンと蟹とビールはとて有名だと聞いて、いっぱい食べた。北海道のラムと牛乳も有名だと言われて、実も本当に美味しかった。北海道大学も行って、羊ヶ丘も行っ、とても楽しかった。「少年よ、大志を抱け」も覚えていて、勉強になった。

春に大正大学文学部と仏教学部の学生たちと一緒に「勤行式」に参加することも面白かった。大正大学から茨城県の雨引山楽法寺に行った。雨引山楽法寺はすごく古い寺だけど、学生に向かって公開するのは、とても珍しいと思う。中国の一部分の古い建物は、守るために、閉めてしまった。つまり、拝見することができなくて、とても残念だった。それは本当の保護ではないと思う。



建物は人々と一緒に生きている。だから私は、日本の文化財保護方法に羨ましい。樂法寺に食事をした後で、勤行式を行った。樂法寺の方丈とお坊さんたちと一緒に経文を唱えて、心が静かになった。その時、その雰囲気を感じることを、一生も忘れられない。

夏休みに、色々な場所を旅行していた。ずっと大好きな京都と奈良、思った通り綺麗な町だった。古い神社と寺を拝見していて、都市の賑やかさから外して、イライラとした気持も落ち着いた。そして、一番自慢なのはもちろん富士山を登頂した時だった。約十一時間がかかって、五合目から山頂まで登っていた。山頂に着いた時、雨になったので、残念ながら、日の出を見ることはできなかった。下りる時に、「富士五湖」の「山内湖」を見た。涙も出るほど感動して、非常に綺麗な景色だった。

この一年間、本当にいい経験だった。「日本に来てよかった!」と思っていて、またいつか日本に旅行したい。その日、中国と日本は仲良くしているのかな、そう期待している



人と人との絆：一期一会

上海大学 李 义翹

去年の9月から今年の8月の日本留学は、私にとって二回目である。大阪で三週間の短期研修の一回目とは違って、今度は正式な留学生活だったと思う。今から振り返ってみると、空港からマンションまでの荷物運びの辛さはまだしみじみと感じているのに、もう帰国しなければならない時期になったのである。この一年間が残酷に経ったけど、私は前の私と同じで、変わったのは、自分の気持ちだけである。

飛行機で2時間あまりのお隣り、日本。茨城空港に着いて、最初に抱いたイメージは青色だった。青い空、青い樹木、青い和服。空気までも青いような気がした。町並みもとても綺麗だし、人は元気いっぱい！私はこんな青い国で一年間を過ごす！確かに、あの時はそういう思いだった。ワクワクしていたのは言うまでもない。後の一年間に、「日本に来てどう思う？」と何度も聞かれたが、最初に私の頭に飛び込んできた言葉はやはり「青い」だった。

留学生活の初めは、自炊に忙しかった。毎日マンションの回りのスーパーと「激安」の八百屋さんを探し、「お米は十条のほうが安い」、「パンならコモディイダが一番お得！」日本に来る前に料理音痴だった私も、毎日の勉強で、人に食べさせられるほどまじくはない手作り料理ができるようになったのである。お金がないため、毎朝早起きして、お弁当を作って、学校に持っていく。バイトをし始めた後、自炊生活も終わったけれども、これで、毎日料理を考えなければいけないお母さんの辛さがようやくわかったのである。

三ヶ月経って、バイトの許可も認められた。先輩が言ったバイト探しの辛さと比べて、私はわりと結構簡単にチャンスを手に入った。東十条駅のすぐ近くの「魚角」という店に応募したら、すぐ入らせてもらった。でも、魚

角に入ったことも、私の留学生活を変えた。店に結構厳しい先輩がいて、厳しいというより、細かいというべきだと思うが、毎日叱られているので、泣きながらバイトし続けた。これで初めて、「ここは自分の家じゃない。私も子供じゃない。皆平等で店のために働いている」と意識した。甘かった自分を捨てて、強い自分を見つけようとしていた。今の私は強いのか強くないのかとは言いえないが、せめて一年間前の自分よりは、成長した気がしたのである。今は店の皆と友達になって、帰国する前に、皆からプレゼントももらった。そのお礼として、私も皆に描いた絵を送った。7月バイトやめる前にも、いつも店長さんに「李ちゃん帰国したら店どうしよう」と言われていて、悲しいけど嬉しくてならなかった。

日本の土に踏んだ時から、日本から離れた時まで、ずっと桜井先生からお世話になっていた。マンションの契約のこと、教科書のこと、NHK料金のこともまでも教えてくださった。担当の先生というより、いつも考えてくれるお兄ちゃんとも言えよう。それに、阿部さんと「お父さん」にも、「ありがとうございます」と言いたかったのだ。

留学生の日本語授業の担当先生大野先生が大好きなのだ。大学院のことも、就職面接のことも、いろいろ教えてくださった。「大野」の中国語の発音とお爺さん（大爺）が近いため、いつも自嘲している可愛い大野先生も、私が大学院に行きたいけどなかなか準備し出さないから、叱った大野先生も、私は大好きで、尊敬している。

人文学科の梅澤先生の「私小説」の授業を取って、とても勉強になった。ゼミの関係で、グループ毎に二週間の発表が行われている。この授業のおかげで、『和解』『なぜ死ぬ身の一踊り』などの私小説を何日かけて読んで、自分の考えを下手な日本語で表したのだ。



この一年間、いろいろなことを見て、いろいろな人と出会って、いろいろな角度から日本と付き合いをして、多くのことを勉強させていただいた。授業のほか、鎌倉の旅、江戸東京博物館、歌舞伎教室などの計画を国際交流センターが立ててくれた。アイドルに会いに行くために、「イタズラなKiss 2013 Love in TOKYO」のエキストラとしてドラマの撮影に参加した。運動音痴でもある私が、富士山を制覇するために、11時間ぐらいかかって、頂上まで登っていった。そのほか、ディズニーランド、ディズニーシー、富士急ハイランド、北海道札幌、ピューロランド、日光東照宮、伊豆高原、熱海、千葉城ヶ崎に行って、いろいろな経験を集めた。東京や横浜などの大都市だけが日本ではなく、まだまだ発展中の農村地帯こそが、忘れてはならない日本の姿だということが、心の中に深く残っている。そして、日本語を学んだことによって、人生の幅を広げる多くのチャンスをいただいた。日本は計り知れない魅力を持っている国だと思っている。

助けてくれたので感謝すべきな人も、見方してくれなかったが成長させてくれた人も、私の一番の収穫だとも言えよう。留学は就職では一枚の履歴書だけかもしれないが、私の人生としては、一期一会の大切さと、一人で事に当たれる勇気を与えてくれたのである。

私が、日本語で大好きな言葉は「また」なのである。決してお別れではなく、再びお会いしましょうという意味である。そして、「また」の縁がもっともっと広がるように頑張っていきたいと思う。日本に来て、大正大学に来て、本当に、よかったと思っている。



一年の留学、一生の思い出

上海大学 方 賢慧

大正大での留学生活は充実した一年だった。

二人で東京に来て、バイトと学校の勉強だけでも精一杯だったのに、私たちはいろいろなところに遊びに行き、たくさんの友達もできた。本当に留学して良かったと思う。

日本に来て初めて体験したことがたくさんあった。の中で最も勉強になったのは、初めて二人暮らしをしたこと、バイトをしたこと、大学のゼミに入ったこと、この三つだ。この一年間には様々なことがあり、友情や自立、日本の大学生活、そしてこれからの人生について、大変勉強になった。わずか一年間の留学が、これほど人間を成長させるものなのか、と今でも不思議に思っている。



携帯をまだ持って無い頃、手書きの地図で道を聞きながら、大正大に初めてたどり着いた。

留学当初、準備する余裕が欲しかったので、私たちは他の留学生より二日ほど早く東京に到着した。迎えも無く、私たちだけでマンションまで順調にたどり着いて、少し自慢げになった。初めての東京は、私たちにとってすべてが新鮮で面白かった。初めての自炊した料理の美味しさ、初めて歩いて学校に着いた嬉しさ、バイトを探すために初めて店に電話した緊張感、初めて自分の給料で家族にプレゼントを買ってあげた満足感、今でもはっきりと覚えている。授業のベル代わりの校歌や踏切の音は、私の心の中で時々響き渡っている。

留学最後の一カ月は、毎日が修学旅行の様に、たくさんのところに行ってきた。

日光の露天風呂温泉、「伊豆の踊り子」の路線に沿っての散策、鵜原海岸で五十人でのキャンプなど、今年、日光、キャンプファイヤーとビールは最高だった。でも、楽しい時間ほど過ぎ去るのは早く、「一年間は短い、もっと勉強できたら、もっと遊べたら良いな」

と今でも残念に思っている。

それでも過ぎ去った時間は決して無駄にはならないもので、この一年間で学んだ事、成長できた事、変化した習慣や考え方は、これからも私の一生に影響を与えていくと思う。

私は「日本は優しくて厳しい国だ」と日々実感して暮らしてきた。その理由は、大学の先生たちは「何かあったら遠慮せずに言ってね、何とかするから」と言っても、最初の三カ月はどうしてもバイトを許可してくれなかったし、レポートの提出も締切が過ぎたら一切受け付けてくれない。何でも「決まりがあるからさ」だって。

バイト先の先輩も、普段は優しくいつも笑顔で冗談が好きなのに、仕事の時には小さな間違いでも直接本人に言って、やり直しさせる。機嫌が良くない時でも、接客する時には絶対に笑顔を満開に。「これは仕事だからさ」だって。

確かに日本人から見れば、中国人はルールも守らない、仕事も適当にする民族だと思われるかもしれない。しかし、中国人からすれば、そうしたルーズさは融通や人情と言えるものだと思うので、日本人こそ真面目すぎるではないか、と思う中国人も多くいるかもしれない。もちろん私自身も日本人の生真面目さには少し不便を感じることもあったが、中国人が日本人に学ぶべきものの一つだと思う。

また、私が日本のサービス業に大変感心したことがある。それは、どこの店でも、店がどんなに小さくても、笑顔と敬語といった接客のマナーが全体的に統一されている点だ。留学当初、私自身が客として買い物したりする時、店員の丁寧さや心こもった接客態度にかえって恐縮感を感じたりもした。後で自分がバイトを始めてから次第に分かったのは、「そうした接客こそが仕事だ」ということだった。

接客のマナーは、バイトを始める前の研修で全部教えてもらった。どのように微笑むか、どれくらいの角度でお辞儀をすれば良いのかなど、接客ではすべて細かく決められている。



「伊豆の踊り子」路線をハイキング



鵜原海水浴場でのキャンプ

日本ではこうした接客のマナーが社会全体に普及していることに、私は驚いた。その点、中国のサービス業はまだ未熟で、これがサービスレベルの差なのだな、と感じた。

それでも日本に滞在していると、そうしたサービスもお金があれば買えるものだと分かり始め、日本のサービス業に感心することも徐々に少なくなってきた。

さらに一点驚いたことは、日本人は本当にお酒とおしゃべりが好きということだった。私は飲食店でバイトをしていたので、お酒を飲みながら、美味しい料理を食べながら、何時間もしゃべり続けるお客さんをよく見かけた。そうした客も男性に限らず、お酒の大好きな女性も少なくなかった。日本では仕事のできる女性が多いことも分かった。このように一日の仕事が終わって、友達や同僚と一緒に

お酒を飲みながら会話を楽しむことは最高だと思うので、将来、私も仕事のできる女性になるように頑張り、そうした生活スタイルを試してみたいと思っている。

最後に、私自身日本は素敵な国だと強く感じた。日本は自然が美しく、生活も便利で、楽しい国だと思う。帰国後の私は、自分が食べた美味しい日本、自分が見た美しい日本、自分が体験した楽しい日本を、中国の皆さんに伝えたい。そして、この一年間の留学から学び得たものを活かして、将来日本で仕事ができることを願っている。



私の留学生活

河南大学 申 遠



日本に来てまもなく一年になり本当に早いと思いました。来たばかりの時には色々なことが慣れませんでした。特に、世界で一番高い物価の東京でお金の使い方はいつも気にしていました。最初はバイトをやらなかったから、毎日のご飯はいつも自分で作っていました。今面白いと思うことはその時にみんなで安いものに対して強く興味があったことです。今ではそんなことも気にしても、それほど興味が強くなりました。バイトしたから、日本のいろんなところへ旅行に行けて本当に楽しかったです。でも、バイトがあるからこそ、行きたいところにも行けなかったんです。人生には残念なことも存在するからそれが完璧な人生だという慰め方もあります。



日本に来て色々なところに行きました。例えば、大阪、京都、横浜、ディズニーランドなどです。一つ一つのところで記念のために絵葉書を買って集めました。一番印象を受けるのは横浜で、本当に色々勉強になりました。赤レンガ倉庫や馬車道などを知りました。そして、マリントワーに登ったり、観覧車に乗ったりして横浜の風景を見て感動しました。横浜の海の向こうはアメリカだから、たくさんの人が行きたいという気持ちも分かりました。

日本で来てから、自分が頑張ることもできるということや授業をまじめに受けられることも知るようになりました。その原因で私は日本に残りたいです。日本で色々勉強して成長したいです。性格が雑で、1つのことに気にするしかできないけど、中国の私より少しいいと思います。ここは中国と大きく違うから、人に迫って努力しかないという環境だと思います。少しちゃんと授業を受けているから、授業で色々勉強しました。一番好きなのは大場先生の授業です。古典の内容なのに、分かりやすい言葉で説明して色々面白いことを勉強しました。例えば、日本の古い時代の美人の標準は引目鉤鼻ということや君が代が国歌だけど、人への祝いの意味を含めているということなどです。特に引目鉤鼻の内容です。先生が描いた模様を見ると、おかしいと思うが、良く理解しました。その授業を受けてよかったと思います。ほかの授業でも色々習ってこれからの勉強にも役に立ってます。



学校の活動について、一番楽しかったのは盆踊りです。生まれてからはじめて和服を着たり日本の踊りをしたりしてとてもいい記憶だと思います。踊りが始まったとき、おばちゃんに引かれて一緒に踊らせました。最初の時にみんなはぜんぜんできないんで、恥ずかったんです。でも、だんだん練習してきれいな動きになりました。終わりのときにずっと遊んで本当に楽しかったです。でも、重要なのはみんなと一緒に遊ぶことだと思います。そろそろ協定留学生が終わって、みんなは帰国しなければならないです。ある人に多分一生も会えないから、悲しいと思います。

日本にいて楽しいことがいっぱいあるが、残念なこともいっぱいあります。例えば、図書館をよく利用しないことや今まで料理できないことなどです。時々図書館で本を借りて読んだことがあるけど、少ないからもったいない気持ちになりました。日本に残れるなら、いい資源をちゃんと利用したいと思います。バイトはチェーンのラーメン屋さんだから、ラーメンが作れるけど、本当の料理を言えばぜんぜんできないです。バイトする前に、お金と時間の原因で料理をいっぱい作りました。でも、バイトしてから、鍋なんか今まであんまり使ったことが無いです。時々、ご飯を作ったら、まずい味だから、食べられないで捨てました。

日本に来た一年の中に、色々経験しました。いいこと、悪いこと、楽しいこと、悲しいことをいっぱい経験しました。こんな記憶は私にとって大事なものです。今は時々辛くても、後悔したことが無いです。やっぱり、日本に来て良かったと思います



日本で学んだこと

河南大学 張 雨晨

飛行機が日本に着いた時の気持ちはまだ生き生きとして覚えているが、もう帰る時だ。この一年間、勉強だけでなく、他にもいろいろ収穫したことがある。ここで言いたいのは、日本にきてよかった。

まずは勉強だ。ここのやり方は以前の学校とはずいぶん違っている。教えてもらうことも同じではない。だからこそ、新しい知識を身につけることができる。例えば、異文化の理解という授業はディズニーのことでジブリのことから、その文化を分析し、理解する。「ムーラン」を勉強した時も私と張倍さんは先生に中国人の視点から分析してみようと言われて、自分なりのレポートもできた。そして、二人一緒にクラスで発表して、みんなの意見も聞いて、すごく勉強になった。それは日本の学生と一緒にとった授業だ。留学生だけの授業もある。例えば、大野先生はいつも留学生のレベルと要求に応じて、ふさわしくて、実用性のある授業を準備してくれる。私は大学院に入りたいということをお大野先生に相談したことがあって、先生は色々なアドバイスをしてくれて、資料までも配ってくれた。先生たちからいろいろ教えてもらってとても感謝する。ここで勉強したのは知識だけでなく、これからの道にも非常に影響があると思う。そして、日本の学生と一緒にそれぞれの学校と文化をプレゼンテーションで紹介することで、日本と他の国のことも理解できるし、自分の国と学校のことともう一度考えられる。それも皆一緒に話し合う機会となって、いろいろ面白い話もして、お互いにもっと理解できると思う。学校の授業だけでなく、日本文化に近く接触するための歌舞伎教室と博物館にいくような面白い課外授業もあって、本当に素晴らしい一年だと思う。

日本にいる間、友達もたくさんできた。一緒に中国からの皆さん、韓国の留学生たちもドイツのイネケさんもみんな仲良くこの一年間を過ごしてきた。皆と一緒に授業を受けて、博物館に行って

歌舞伎も見た。そして、中国からの皆と一緒に色々な所へ旅行して、とても楽しかった。このように特別な友達はこちらしかできなくて、大切にしたいと思う。温泉も行ったし、花火も祭りも見に行った。特に大正大学の銀杏祭と盆踊り、自分の身を持って参加して、すごく楽しかった。浴衣の着方も覚えた。盆踊りの時、皆と一緒に浴衣を着て踊って本当に楽しかった。最近呉さん、李さんと一緒に富士山も行って、初めてこんなに真剣に登山する。そして、11時間もかけて、山頂に着いた。残念なのは雨が降っていたので、日の出は見えなかった。実は、すぐ頂上に着いた時、私はちょっと調子が悪くて、呉さんはずっとそばに来てくれて、そのごろは冬のように悪くて、雨も降っていたし、でも心は温かかった。ここにいる一年間いつも呉さんが面倒を見てくれて、呉さんだけでなくほかの皆さんにもいろいろご迷惑をかけて、皆いつも優しくしてくれてありがとう。

東京のほかに、京都、奈良、大阪も行って、東京と違う日本の風情も感じた。特に奈良に行った時、鹿は驚かせるほど多くて、人に親しい。こういう景色は中国では全然見えなかったから、びっくりした。北海道では道で熊も見えると聞いて、また日本に来る時見に行きたいと思う。

日本にいるこの一年間は大学の先生たち、友達などいろんな人にお世話になりまして、忘れられない一年間を過ごして、心から感謝したいと思う。来る前に政治の原因で家族と友達はちょっと心配して、今でも時々聞いたことがある。しかし、きた後、先生たちと普通の人たちは皆優しくしてくれて、特に先生たち、いつも留学生たちの生活に気を遣ってくれて、私たちも心強くなった。一緒に来る皆ともお互いに助け合って大切な友達になって、こんな素敵で一年間を過ごしてよかったと思う。一生の宝物だと思う。



日本の印象

河南大学 劉 静雅

時間が経つのは本当に早く、一年の留学生活はあっという間に過ぎてしまった。留学のチャンスを得て、異国の生活を体験し、自分はなんてラッキーなのだろうと思っている。この一年間は長いようで短い時間だったが、日本や日本文化について学ぶことができ、またいろいろな人と出会い、いろいろなことを経験し、これからの長い人生にとって、すばらしい経験であったと思う。収穫の多一年間であると同時に、感慨の深い一年間でもあった。

ある国の言葉と文化を勉強するには、自分でその国に行き経験せねばならぬとある学者はそう言っていた。私もそう思う。去年の九月日本に来て飛行機から降りた瞬間のあの感動と言ったら、「あ、ここが日本、自分が勉強している日本語の母国なんだ！」と興奮してたまらなかった。日本に来る前は日本語を身に付け、日本文化を深く理解するという考えを抱えて日本に来たのである。今振り返ると一年間に思い出をたくさん作った。

新しい日本を発見

日本は優しい国である。バスは乗客がきちんと座ってから動き出す。電車には冬になると座席にも暖房が入る。トイレには、予備のトイレトーパーペーパーがいつも置いてある。それに、赤ちゃん連れのお母さんのために、オムツ替えのシートもある。そういう細部に至るまで人のために考えているところがすごく優しいと思う。日本のサービス業界の「顧客第一」の考えもすばらしいと思う。買い物に行ったら、店員さんの笑顔がいつも素敵だ。釣りを出す時は、ちゃんと一枚ずつ数えながらお客さんに渡す。それはどんな店に行っても同じである。それに、販売されるものにはいつもサンプルがついている。アイスクリームの場合、各味各サイズ、全部サンプルとなって羅列されていて、実物とほとんど同じように作られている。包装のある商品もちゃんと中身を示すサンプルがついている。それに、試食できるものもよくある。お客さんがその品物をよく知ってから購入するため、騙されることも少なくなる。一つすごく印象に残ったことがある。それは日本に行けば

ばかりの時だった。みんな揃ってソフトバンクの営業店に携帯電話を買いに行った。でも、外国人登録証とか銀行口座の都合とかいろいろな理由で、なかなか順調に契約を結べなかった。しかし、次の日またその店に行ったら、店の中に一つの本が増えていた。「中国語入門」の本だった。それに店員さんが何かを説明してくれる時、時々変な中国語の単語が出たりして、びっくりした。ただ私たち何人のためにそこまでしてくれるなんて、その気持ちに本当に感動した。中国では「お客様は神様」という言い方があるが、それは日本にこそ当てはまる言葉であると感じた。

いろいろな人の出会い

日本で一番うれしいことといういろいろな人と友達になることだと思う。人と人の出会いは本当に不思議なものである。生まれ始めての海外生活でワクワクするより不安が多い。知らない人、わからないことばかりであった。幸いに上海の学生二人と出会って友達になって、一緒に遊んだり、買い物にしたりするのは楽しかった。そして日本に来てのはじめての出会いパーティーでみんな得意な手料理を作って食べながら話すのは本当に楽しい思い出であった。クラスにそれぞれの国から来た留学生たちがみんな仲良くに授業を受けて、日本語でコミュニケーションしたり、わからないところで助け合ったりするのは忘れられない。国際フォームで日本人の学生たちと出会って一緒に中日文化について話して、貴重な友情を作った。中国人であろうと、日本人であろうと、ドイツ人であろうとみんな同じ地球で生活して、同じ笑顔をして、親切で温かい友達の手をつなぎたいと思う。



素晴らしい経験

面白い祭り

大学祭りいわゆる大学祭である。十一月大正大学の大学祭が開催された。前はただ日本のドラマで見たことがあっただけでしたが、やっと自分も体験できることになりました。大学祭前には、学生さんが学校のあちこちに集まって、相談したり、看板を作ったり、大学祭のためにいろいろ準備していて、やはり日本っていうのは集団主義だなあとつくづく思った。私たちもいろんなゲームを参加した。ダンスをしたり、歌を歌えたり、自分で物を作って売ったりする学生たちの姿を見て、それは中国の学園祭と全然違うなと感じた。日本の大学祭は学生の楽園ではないか。しかも参加するのは学生だけではなく、学生以外のだれでも参加でき、とても賑やかであった。

素晴らしい日本文化の旅

短い一年の間にたくさんの名所を訪れました。皇宮、横浜の中華街、東京ディズニーランド、富士山、上野公園、明治神宮、富士麓の温泉、鎌倉大仏、江ノ島の水族館などなど。旅を通して、自分は今日本という社会に、そして日本人という集団に属して輝いているということをしみじみ感じた。一番誇りに思った旅行は富士山の山頂に立ったことである。私にとってはこれはチャレンジである。生まれ始めての登山は日本で実験できた。登山用具をレンタルして、ツアーについて山に登り始めて、水や食べ物などいろんな困難を超えてやっと山頂までできて一番きれいな日の出を見た。富士山の山頂まで立った以上これから私の人生にたとえどんな困難があっても越えて見せるという考えがあった。

一年間に数えきれないほどの思い出を作った。日本語の能力はどれほど上がるかわからないが、日本の文化を深く理解できるのは疑いがないことである。今は中日は大変な時期であることがわかるが、日本のことは本当に大好きだ。中国に帰っても日本のいいところをにちゃんとみんなに伝えたいと思う。



日本の留学生活

河南大学 張 倍

日本の留学生活について、なかなか書けない気がしている。何故かというと、この一年はいろんなことを経験して、簡単に気持ちを表せないと思われる。

一年前の私、先輩達と一緒に成田空港に着いたばかりの時、ドキドキしている気持ちはまだ覚えている。この一年はどうなるのか、頭の中に何度も想像していた。楽しいことはもちろん、辛いこともきっとあるのだろう。今まで、狭い空間に生きている私は、どうやってこの広い世界を迎えるか。あの時の私、嬉しいより不安の気持ちがもっと強いと思っている。

一年後の今は、日本に留学に行ったのは本当に良かったと実感している。この一年は、これまでの人生の一番有意義の時期だと思われる。それに、この一年間の経験は私の大切な宝である。

大正大学に入る時、私の熱情は9月の東京の暑さのようである。立派なビル、美しい銀杏、荘厳な礼拝堂は目に映った。キャンパスは中国のより狭いと言っても、すごく綺麗だと思っていた。この綺麗な学校では、いい思い出を作った。面白い授業に出て、日本人の友達ができ、図書館で本を読んでいて、日本語のレベルは高くなったと思っている。それに、日本人の学生と一緒に学部授業を参加して、中国の大学の違う雰囲気を実感して、日本人の学生のすごい勉強力にも感心した。

勉強になった所は学校だけではなく、バイト先も大切な所である。最初バイトを探していたのはずいぶん苦労していたが、ある程度の訓練だと言えるのではないだろうか。バイトしながら、学校に通うのは初めての経験である。それに、厳しい店長に怒られる時の辛さ、親切なお客様に褒められる時の嬉しさ、先輩達と一緒に頑張って美味しいラーメンを作って出来上がった時の満足感、給料をもらう時感じられた自分の価値、すべては私の何よりの宝だと思っている。

この一年間、日本のいろいろな観光地を訪ねに行った。旅行が大好きな私にとって、日本に留学にきてのは本当にいいチャンスだと思っていた。

旅行しながら、日本の文化と風俗をもっと深く了解できるのではないだろうか。新宿、渋谷、秋葉原に行って、東京の賑やかさを感じた。箱根、湯河原の温泉に入って、和式の旅館でものすごく美味しい和食を食べて、日本の伝統を味わった。京都の美しいお寺を訪ねて、大阪のお好み焼きを食べながら面白い大阪弁を聞いて、関西の文化に興味を持ってきた。北海道の限のない青い空と白い雪をみると、何という純粋な気持ちになった。

「伊豆の踊り子」の歩き道を歩きながら、川端康成の文学成果に感心していた。三回の日本文化研修コースで、日本の歴史と伝統文化を楽しく勉強になった。この短いような長いような一年間、そんなにたくさんの思い出を作って、本当に良かった。

中国と日本は一衣帯水の隣国だと言っても、色々なことで、お互い理解しないところがたくさんある。日本にきて、自分の目で事実を見るのは何よりだと思われる。いつも細かいところまで人のために考えて、いつも礼儀正しく優しい日本人から、思いやりのある仕打ちを身に付けた。いつも秩序立っていて少しの乱れもない日本社会をみると、ルールを守るの重要性がもっと深く認識していた。私は、言語はコミュニケーションの架け橋だと思っている。だから、自分はちゃんと日本語を勉強して、日中両国の友情のために架け橋の役を果たすように頑張ると決めていた。

今、私は家の中にこの一年間を思い出す。短い一年間に、いろいろな人と出会った。振り返ると気持ちは複雑である。「一期一会」という言葉が大好きで、これからも人を大切にす。この一年間、助けてくれた先生達、先輩達、バイト先の店長さん、出会った友達に、心から感謝している。縁があれば、必ずまた会えると思っている。



東西大学校

日本文化研修生の報告



k568836 www.fotosearch.com



日本文化研修に参加して

東西大 学校 キムジヒョク(김지혁)

日本文化研修に参加してとても多くのものを得てきたと思う。

お金が不足して大変だったものもあったが、それよりも日本文化研修をしている間はとても楽しかった。

あちこちを旅行も行ってみたいもしてとてもたのしかった。

半年間の語学研修だったが、多くの勉強になった。

気持ちとしては、もっといたいたがお金が足りなくてもっととどまることができなかつたことが残念だ。

次にも日本に行く準備をしながら少しお金を稼いでおく予定だ。

もう一度その生活をしてみたいからだ。

その時は学校ではなく、社会での生活になると思って、ちょっと心配だけどそれを向けた準備がないかと思っている。



日本文化研修に参加して

東西大 学校 ハドンヒョン

4ヶ月間の留学生活が終わりました。

初めて日本に行く前には長い時間だと思って行っていたが、生活をしてみたら、短く感じられました。大正大学の配慮で様々な研修プログラムに参加したが、意味深い時間でした。箱根温泉、美術館、江戸博物館、鎌倉、歌舞伎などの様々な体験をできて良かったです。温泉は私が思ったより失望をちょっとしました。しかし美術館、博物館、鎌倉、歌舞伎などは日本でのみ体験できることだったから良かったです。

そして学校内でも多くのイベントに参加しました。日本の抹茶を味わうことができる機会が出来て、学校の関係者の方が直接、抹茶を作ってください、ありがたく飲みました。外部の人たちも来て参加する盆踊り。初めて日本舞踊を踊ってみました。そして浴衣とジンベも貸して下さって着られる機会ができて良かったです。初めて踊る時ぎこちなかったけど、周辺にいるおばあさんたちが助けをくれて容易に学んでダンスを踊りました。

8月1日に学校で行う行事には私たちが直接参加はしませんでした。私たちがその前に帰国をしたため、それでも心だけは参加したくてタムラ先生に頼まれて私の留学生とも絵ほどに参加しました。

日本にいる間、先生たち、学校関係者の方たち、そして日本人友達の助けで私たちは多くのことを勉強して、文化を体験して韓国に帰ってきました。本当に良い機会だったし、時間でした。



「日本文化研修に参加して」

東西大学校 박지미(バクジミ)

日本文化研修'初めて経験してみた日本文化研修、それこそ楽しかったし、私にたくさんの経験を与えた研修だった。団体へ行くことになった研修お互いに初めて見た先輩、後輩だけで行ったぎこちなかった研修。しかし、4カ月間一緒に授業を聞いて一緒に遊びにも行って一緒に勉強してお酒も飲んでしたら先輩後輩の厚いほど積もって研修期間中に良くないことが起きたときにも助け合って過ごした。こんなに私の団体研修は、意味深い語学勉強であり、人生の勉強になったようだ。最初は難しい日本語だけを聞くこともうまくいわずに書くのも下手で、慌てた時間だった。しかし、オノ教授が継続して出した宿題をして発表準備もきちんとしてみるといつも恥ずかしさが多くてよくできなかつた発表も過ちした私が少し自信を持って発表できるようになった。日本文化についてもある程度わかると思いましたが、実際に経験して見たことと本で見たのははっきり違っていた。本当にこの短い間たくさんの文化を経験したようだ。本当に一面は本当にここに住みたいと望んでもして、他方では“あ、ここの本当に住みにくい”と思ったことも多かった。この日本文化研修で大政大学側の語学研修プログラムによって日本伝統文化や名所などを体験することのできるプログラムがあってとてもよかった。たとえば、歌舞伎、にも博物館、箱根、鎌倉など、いろんなところを行った。こんな経験は簡単じゃないのに大政大学側で多くの助けを下さったようだ非常に短い期間だけど日本人の日常生活や、文化を簡単に近接する啓示がなった留学生活だったから凄く良かった。しかし、期間が惜しくも4カ月しかかからず、多くのことを体験するにはとても短い時間だった。日本人友達も付き合うことにも短かつたし、惜しいものもたくさんいる。学校の授業も初めは難しくして宿題をたくさん出してもそれはとても多くの時間がかかって大変

だった。授業をしてくれる先生たちも私たちによいようにとても指導して下さいて大野教授の両親は私たちが不足した点を補ってくれたりもして、毎日私たちに知らせておきたい情報もプリントして教えてくれた。そして何事がありましたら心配もしてくれてすごくたくさん親しくなったようだ。必要なときに相談をして助けをくれて、勉強はよくできているのか苦労した点はないのか聞いてみてくれた。留学生たちをよく管理して下さった方も多く気を使ってくれた。日本留学生生活をしながらいろんな大変なことも多かった。電話にならないものこのように大衆交通に人がこんなに多いという点もそして日本人は本当に静かな時は静かだ。公共施設法は遵守することによく守った。この点は、韓国は学ぶべき点のようだ。そして個人の空間を重要視すること、人に避けてくれないこと、防犯もよくなっているようだ。一人で旅行来たり勉強しにすることは本当にいい国だようだ。もう一度私一人で旅行を行ってみたい。授業もとても役立つ授業だったし、教授たちや他の方々にも沢山の助けをくれてもっと便利な留学生活になるのではないかと思った。研修途中、恥ずべきことが発生したが、いろいろと周辺の方が手伝ってくれて最後の研修までよく終わらせることができた。もう帰った時はみんな笑いながら心配してくれながら喜んでいただきとても感謝した。いろいろと多くの迷惑をかけて心配かけて本当に申し訳ございません。最後に外国語科学系の学生ならこのようなプログラムも相当の助けになると思う。もう一度こんなプログラムがいたら、もう一度申請したい。私の頭の中に大切な思い出に陣取るようになった日本文化研修期間だった。もし次にまた研修に行くようになれば日本の友達をたくさん買うこともロックしなければならぬ。今回はとても短い期間だったし気なかつたから全然できず、その点が本当に惜しい。



〈がまくら-外国人들과 함께〉



〈エド博物館-사쿠라이〉

日本文化研修に参加して

東西大生校 キムナヨン

大正大学に交換学生に行くことができる合格を聞いて、私はできる限りの準備を熱心にしました。しかし、実際に日本に行ったらすべてが見慣れただけです。2年間の勉強をした日本だが、ご飯を食べに行きましたが、自信がないというのが怖くて購入ハヌンゴトも大変でした。まだ適応ができない留学生のために大正大学の入学前に事前教育をいただきました。そして、先生方の親切な案内と東西大学に交換学生来た友人は、いくつかのアドバイスをしてくれました。それによって徐々に適応することができました。

最初に日本語の授業を開始し始めた時は先生が言われることを理解してなかったし、発表することは精々自己紹介することができるほどでした。しかし、先生が着々と説明してくれて、いくつかの例を作ってみたりグループを作成し、いくつかの課題をする過程で、徐々に日本語が増えている私を発見することができました。

そして、日本語の授業だけでなく、日本の様々な体験をすることができたことが印象に残ります。日本の伝統ともいえる歌舞伎公演も見ることができた江戸時代をそのまま入れておいた鎌倉も印象深かった。日本の伝統的な体験をしながら、韓国と多くの類似点が多いということを感じました。一番記憶に残っているのは、1泊2日で行った箱あなたの研修です。東京は、賑やかで都会的な印象が強かったが、2時間で行く自然の姿そのまま箱根の姿に驚きました。私の目に直接温泉が上がってくるのを見ることができた宿泊施設に行き、直接その温泉を体験できたのもとても嬉しかったです。忙しい東京を離れ、心の癒しとなる研修だったようです。

学校での日本文化研修以外にも日本の友達ともたくさんの思い出を持つようにされて嬉しかったです。韓国人の友人のために日本人の友人と一緒に交流の出会いを持つようにしてくれた東京をよく知らない私達のためにいろいろな場所をおすすめしてくれて一緒に行ってくれました。日本で多くのことを教えて、経験にしてくれてとても感謝しています。



日本文化研修に参加して

東西大 学校 キムミソン

4月から7月までの4ヶ月間の大正大学での語学研修がこんなに早く終わった。まだ実感ができなくて、すでに懐かしい。最初は日本での勉強と生活をよくすることができるか心配したが、心配と非常に反対であった。大正大学の先生たちもみんな親切で、大正大学の建物の設備もよかった。そして、日本人の親しい友人もたくさん付き合っって日本語の勉強の多くの助けとなった。今もまだ足りない日本語の実力だが、日本の語学研修前より日本語の実力が向上したと私自身も感じている。学校と寮の距離は10分を歩いて地下鉄に乗ってまた10分を歩くと学校に到着する。すごく暑い日以外は楽しく学校に通うことができた。何よりも寮の近くに市場やコンビニがあった。そして学校で箱根、鎌倉、歌舞伎公演、博物館、美術館など多くの場所を体験し、日本文化をよく知ることができて本当に楽しかった。最初は日本語の勉強もとても大変で、先生が出してくれる宿題も多すぎて苦しくて早く韓国に行きたかったが、だんだん日本語の勉強にもっと興味ができるし今は先生にとっても感謝している。時間があまりにも短いと感じるほど楽しかったし人生にとって忘れられない日々であった。



日本文化研修に参加して

東西大 学校 キム・ユンジン

2013年3月26日から2013年7月25日まで日本文化研修を行ってきた。

最初は文化が違うから慣れることが大変じゃないかと心配だったが、思ったより早く慣れることができた。

この4ヶ月間、大正大学で多くのことを診て聞いて学んだ。また、いろいろな場所に行って、文化研修をしながら、多くのことを経験することができた。例えば、歌舞伎を見に行ったこと、箱根への研修、日本江戸東京博物館、鎌倉などいろいろなところに行っておおくのことを体験した。

他にも学校の中で盆踊りという祭りがあって、浴衣も着てみて踊るなどの経験もすることができた。

また、日本人の友たちがたくさんできたので、留学生と交流会をする機会を作ってくれて、そこでより多くの友たちを作ることができてよかった。日本人の友たちが私たちを親切に助けてくれたのもっと日本の生活に良く慣れることができた。

日本語の実力も最初より本当に良くなった。最初は聞き取りもよくできなくて漢字もほとんど知らなかったが、今は違うので、とても役に立ったと思った。

今回の研修のためにあまりにも多くのことを学んで、私に多くの助けになったと思った。

終了式の日、終了証をもらうとほこらしく感じると同時にもう留学が終わったのを実感した。

この4ヶ月がすごく短いと感じられるほど楽しくてやりがいのある研修だった。

帰国するころには皆と馴染んで別れるのが悲しかった。

後に機会があったら、ぜひもう一回日本に行きたくなった。今回の研修はとてもいい経験だった。



日本文化研修に参加して

東西大学校 パクジウン

私が日本へ来る前には漢字をよくわからなくて読むことや書くことが大変でした。そして初めて授業を受けるとき先生のお言葉とかテキストの内容などが本当に難しかったです。ところが授業が終わって家に帰って毎日勉強をしながら復習をしました。するとだんだん漢字の読み方や先生のお言葉がわかりました。特に大野先生のおかげで日本の礼節と文化について学ぶことができました。それで日本人の友達も付き合っ一緒に話しながら遊びました。皆が親切で有り難いでした。また日本の友達と韓国と日本の文化の違いについて話すことがおもしろかったです。そして箱根や歌舞伎や鎌倉をいってきました。そこでは日本の伝統的な場所を見てよかったです。それで 学校の授業がなく休みの日に私は友達と一緒に 日本の有名な観光地に行って写真もたくさん取っていろんなものを見て多くの思い出を作りました。研修の期間がちょっと短くて残念でしたが、日本で4ヶ月間多くのことを学ぶ、たくさんの思い出を積みました。今度の研修は忘れないです。

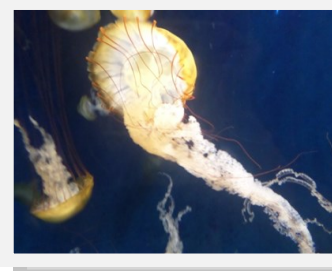
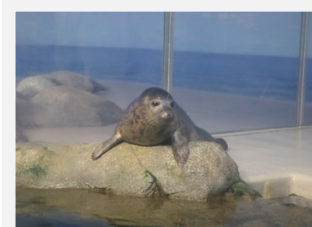
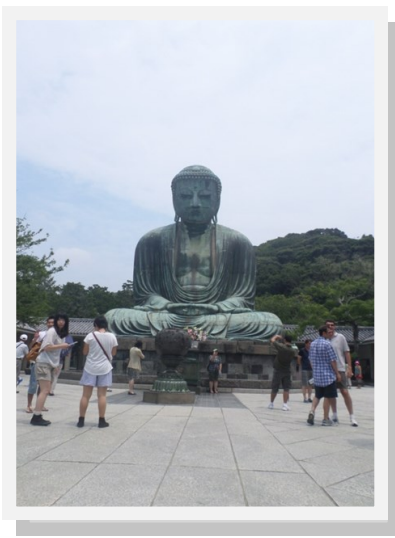


日本文化研修に参加して

東西大学校 イチェウオン

私は今度の語学研修の時、色々なことを見て聞く日本文化研修に参加した。2013年7月13日には鎌倉から江の島まで行って来た。日本の鎌倉に行ったことは今回が初めてだった。私たちはまず高德院というお寺にある高さが約11.3mもなる有名な大仏を見るため、鎌倉駅から海が見えるし住宅街の間を通り過ぎる日本で古い歴史を持っている江ノ電を乗って長谷駅で降りた。それから、長谷駅の周辺にあるアイスクリームなどの食べ物と色々な観光商品を見ながら約10分くらいを歩いて高德院に到着した。真っ先に目に見えるのは手を洗う所だった。そのそばには「この水は手を洗うだけ」の意味のメッセージが外国語で書いてあった。それを見た瞬間、私は姉と福岡にある神社でそんな水を飲んだことが頭に浮かんでちょっと恥ずかしかった。その時は日本語を読むことができなかったが、今はできるから今度は警告文をちゃんと見て前と同じミスをしなかった。当日の最高気温が35度で暑くて手首まで何回も洗ったけれども、すぐ暑くなった。そして、いよいよ大仏を見た。鎌倉の高德院にあるその大仏は日本の国宝で日本の奈良県の東大寺にある大仏、高岡の瑞龍寺にある大仏とともに日本の3代大仏と呼ばれているそうだ。また、日本にある大仏の中で二番目に大きい大仏だそうだ。大きい大仏は韓国にもあろうに私が韓国で見た大仏と感じが違って珍しかった。

高德院の大仏を見たから、昼ご飯を食べて江の島水族館に行くために長谷駅に帰ってまた江ノ電を乗った。長谷駅まで来るときは見えなかった海が見えた。今は夏だからやはりサーフィンをしている人が多かった。天気が悪くなかったせいか、あまり清い海ではなかったが留学生活をするように日本に来た後初めて見た日本の海だったので気持ちが良かった。海を見ることが終わったから電車は住宅街に入った。道が狭くて家と木が電車と本当に近かった。そんな電車に乗ったことがなくて不思議だった。江の島水族館の位置は海が見えるいい場所であった。私は水族館が好きだけどじきじきに行ったことは中学生のときが最後だから期待していた。江の島水族館には多くの魚、大型のカニ、多くのクラゲ、ペンギン、アザラシとアオウミガメなどたくさんの種類の海洋生物と潜水艦があった。私はその中にクラゲとアザラシが一番よかった。クラゲは神秘的で、アザラシはかわいかった。イルカの講演もあったが時間の関係上、観覧することができなかった。それでも水族館は思い通りに面白かった。鎌倉と江の島には、私が行って見たことを含めて見るべきものがたくさんあるそうだ。今度の日本文化研修のお陰で、機会があったら家族と一緒にまた鎌倉と江の島に行って見たくなった。



日本文化研修に参加して

東西大 校 パクガラム

4ヶ月の間の大正大学語学研修は、私にとってはもっと広い視野と日本語の能力上昇に多くの助けを与えた。4年生にもかかわらず、簡単な日本語の質問に答えていないのことが多く恥ずかしい記憶があったが、今回語学研修参加をきっかけに自信を持ってできて日本語実力も増えた。現地の先生と日本人の友人の細かい指導と助けのおかげで、不足した部分を多く補完することができた。また、留学生生活をしにくい部分がある場合は躊躇せずいつでもどこでも助けになった。多くの観光スポットを勧められ遊びにも行って日本の生活に必要な助言をしたりもした。

一度は小野先生のおかげで、研修プログラムにはなかった茶道の授業をして、日本の茶道礼節を学び、作成する方法を目の前で見ることができた機会があって茶もおいしく、韓国とは別茶のマナーを学んでみんな面白くした。学校祭時は、先生方が気軽に浴衣を貸してくれてきれいな浴衣を着て伝統的なダンスも学び、楽しくお祭りを楽しむことができた。



大正大学語学研修は、学校内の勉強するだけでなく箱根、江戸東京博物館、鎌倉、歌舞伎公演など、さまざまな見学のプログラムを用意してくれた。その中で一番記憶に残っているのは、箱根と江戸東京博物館である。

箱根は、美しい山と湖そして数々の有名な温泉と展示館、美術館がたくさんあるところである。湖の水を遊覧船に乗って行って、ケーブルカーを利用して、大涌谷の温泉でじっくり煮た黒い卵も食べてみ箱根彫刻の森美術館で有名な彫刻家の作品と普段好きだったピカソの作品も直接見ることができていた。

江戸東京博物館は、江戸時代から現代まで、東京の歴史が展示されている博物館で今の東京があるまでの時代の流れを把握することができたが見学は、私が日本の歴史についてもっと勉強したいという気持ちを与えることを許可した。

大正大学に通いながら、多くの日本人の友人を付き合うことができた。この友人のおかげで、日本をもっと知りたくなり、愛するようになった。

韓国人のように韓国語が流暢して知らない文法があればお互いに聞いてみたり、時にはビールを飲みながらお互いに悩み相談をした人もいたしショッピングに興味がある私とルームメイトのためにきれいな服屋を紹介してくれる友達もいた。アメリカで生きて日本に来た混血人もいましたがこの友人は、複数の国の友達をたくさん紹介させてくれ様々な文化圏の友人に会ってもう少し多くの国を経験したい気持ちと、他の国の言語を学びたいと思う欲が出た。

特に東西大学に2週間研修来た友人との間が格別だった。

学校生活はもちろんのこと、学校の外でも一緒にした日が多く、思い出が多くの友人だ。韓国に戻る前の研修に参加した友人の家に招待を受けてたこやきパーティーをしたが、その日私のルームメイトと私のためにサプライズプレゼントと手紙を用意して感動して涙の海となった。その時は本当に韓国に戻りたくないほど別れが惜しかった。

大正大学語学研修は、日本語の実力も上げてくれましたが東京の都心に位置し、多くの文化的な生活を見て楽しむことができたし様々な人々に会って、外国人に対する先入観を破ることができた。日本に行く前に地元の人々と親しくなることができるか行って慣れていくことができるか心配が多くなったが、国籍に関係なく、本気で近づいてくれた良い友達と先生方のおかげで日本語の実力だけではなく心がいっぱい満たす感じだった。



日本文化研修に参加して

東西大 校 イ・ジョン

2013年3月26日、8時東京に向かう飛行機を乗って、4ヶ月間の短い語学研修が開始された。3月は学校の行事と日本生活に対する適応に一日一日が取り紛れた。特に学校行事で行ったお寺で同じ日本語日文学科の新入生たちとバスでおやつも分けて食べながら、韓国と日本文化を話しながら楽しい時間を過ごした。日本に来て初めてドライブをしながら、余裕のある時間を送った。また、入学式の時も、学校側に配慮と関心で和気藹々ような入学式を終えた。その後、2月に東西大で語学研修に来た友達が学校の施設を紹介してあげて、夕方は歓迎会も開いてくれて楽しい時間を過ごした。大正大学に勉強をする前に友達も付き合っ、学校生活に対する説明をする機会をあっけなくとって特別な時間だった。日本での授業は覚悟はしてきたが、実力があまりよくない私だったので、授業そのものがとても大変で、疲れた。‘私が、果たしてこの授業をどれくらい理解しているか?’という疑問がでたりもした。隣の友達に聞いて、一つずつ知らないことを遅くとも理解しようと努力しましたが、先生に質問をしたい時もあったが勇気が出ない開講後3週間は怖くてもどかしい気持ちだった。先生はミニテストをよくしていつも勉強しなければならぬ雰囲気を作成してくれた。私たちも最初はとてもひどいと陰険な表情をしたが、だんだん適応して誰彼なしに一生懸命に勉強して満点が出てくる学生もいて、自分も知らない間にみんな実力がたくさん向上されていた。また、日本語能力試験2級に相当する文法がテキストに載り、その文法を利用して例文を作る宿題をくれましたが、最初は難しく、やりたがらない課題の中に一つだったが、時間が経つほど留学生たちみんなが楽しみながら勉強する有益な時間になった。先生はいつも熱情な姿で授業を準備していらっしやっ、ひらかな、カタカナも一つ一つ説明をしてくださって正しく字を書くことができるように手伝ってくれた。

5月に入ってから、待っていたゴールデンウィークが始まった。日本は初めてである私としては多くの期待になった、計画も着実に控っおいたから天気さえ良ければするのだった。幸いにゴールデンウィーク中に雨の知らせが聞こえない、観光客のように熱心に東京あちこちを見物した。最初日は浅草とお台場に行ってきた。浅草を象徴する雷門の前には世界のいろんな人を見ることができた場所ようだった。中店は日本らしいお土産にあふれ、また有名なだんごも食べながら、お台場に移動した。日本旅行だったら必ず一度は行ってみなければならない場所であるお台場は写真よりも美しい夜景に遠くから来た私を暖かく出迎えてくれた。久しぶりに海の

匂いも嗅いで、私はいつのまにかお台場の夜景に酔っていた。次の日は、東京を離れて横浜の桜木町を行ってきた。青い海と青い草と木が似合うたその姿はとても美しくて平和に見えた。夜景もとても美しく、話が續かなかった。必ずまた行って見たかったけど行かなくて残念な所の中で一つである。また、5月に忘れられない場所の一つは、学校側で準備してくださった1泊2日箱根旅行だった。森美術館、ガラス工芸、大涌谷、遊覧船など忘れられない思い出を作った。また、ぎこちなかった留学生たちともふさわしくて良い機会となった。6月に入っている日本の代表的な演劇人歌舞伎公演を見るようになった。自分たちの文化を守って、保存する姿が本当に美しくてうらやましかった。江戸時代の博物館などで日本の歴史とその当時、生活を目で見て、体で感じる体験をすることができた。博物館から近いところにスカイツリーが位置して東京を一目に見て、夜景にもう一度惚れてしまった。このときは日本人友達も一緒に同行して一緒に写真も撮って、話も交わしながら楽しい時間を過ごした。最後の月だった7月には日本鎌倉幕府の中心である鎌倉に行ってきた鎌倉の象徴である大仏、、、その穏やかな顔をぼんやりと眺めてばかりした。韓国の石窟庵とは違う魅力があるようだった。ある漫画の場面からも出てくる美しい海の道に沿って行く江ノ電はどんな電車より浪漫的だった。学校で私たちのために準備してくれた多様な学習機会に東京以外のところも行ってみたいことができ感謝する。そして大正大学の友達ももう一度ありがたいし、日本の生活の適応を早くできるようになった原動力でもある。4ヶ月間の短い語学研修であったが、友情はそのより深いと思う。韓国に戻る1週間前にはたこ焼きパーティーを開いてくれ、歓送会も開いてくれた。日本人のことが難しく、言うのも^{てっばい}難しかった私に友達はそんな先入観を撤廃した。多くの人たちと新しい出会い、また別れ。24歳の私をもっと成熟させてくれた。また、日本で就業をした学校先輩との出会いで日本語を生かして、就業をしたいという気持ちもできて、過去の私を振り返ってみて、今後どのようにすべきか多くの考えを持って釜山に帰ってきた。



日本で学んだこと



東京都豊島区西巢鴨3-20-1
教学支援部学務支援課
国際係

HP :

http://www.tais.ac.jp/student_life/abroad/index.html



留学生は日本の文化に触れ、日本語を学び充実した日々を送っていたことと思います。日本は、東日本大震災からの復興を目指し、日々努力をしています。日本と中国、日本と大韓民国との関係を留学生たちは親善大使として大いに活躍してくれたものと信じています。これからも、多くの若者が行き来できる関係を保ちたいと思います。

それぞれの国に戻った後も、大正大学での学習を思い出し、自分に問いかけをしてください。「今のあなた方を支えているのはだれですか？」

いつか、みなさんからのメールが届くこと楽しみにしています。

